団 体 名：NPO 法人　クラブしっきーず
取組地域：埼玉県　志木市
取 組 名：地域密着型サードプレイスによる一体的支援事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築	☆	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★	多世代	☆	こども・若者	☆	中高年者	☆	高齢者

☆	障害者	☆	外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

☆	子育て世帯	☆	ひとり親世帯	☆	単身世帯

☆	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人	☆	生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（1）取組の内容

目的	本事業のコーディネーターが相談支援と居場所支援を一体的にコーディネートし、当事者のメンタルケアはもちろん、当事者が様々なプログラムに参加しながら小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感や自己有用感の高まりから自信を獲得し、成長・回復へとつながるための支援を行う。
対象とした人	世代や障害の有無を問わず、地域住民全体
内容	児童や生徒、その保護者やシニア世代を対象に、放課後や土日にスポーツやレクリエーション・食を通じた交流の場を提供した。また、参加者同士の『顔の見える関係性』が生まれ、自己肯定感や自己有用感が高まることで、日々の暮らしを心豊かに過ごすことへとつながるよう、保護者・シニア世代には、参加者でありながらも“ちょっとしたボランティア感覚”で支える側としての役割を担ってもらった。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	【会場提供・情報共有】志木第三小学校、行屋稲荷講、宝幢寺、城町内会、中野町内会 【情報共有】志木市社会福祉協議会、株式会社ミヤケン、志木市生涯学習課・健康政策課・長寿応援課 【指導者連携】軟式少年野球志木中野
対象とした人とつながるために行った工夫	・ 不登校やひきこもりの悩みを抱える当事者に対して、「配慮はするが遠慮はしない」ことが、当事者へのリスペクトであり、そのリスペクトが相手（当事者）にも伝わると考え、その“心の距離感”を大切にして接した。 ・ 対象者と出会うために、地域のイベント等に顔を出す等、「常に地域の現場にいること」を大切にした。 ・ 対象者への訪問活動を行う際、コーディネーターのみが訪問するのではなく、コーディネーターと一緒にこどもが訪問することで、多くのこどもたちが地域福祉の担い手へと成長した。
定性的な成果 定量的な成果	（定性的成果） ・ 不登校に悩む児童がプログラムに参加し、小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感が高まり、学校に通うことが楽しみとなり課題解決につながった。 ・ ひとり親家庭が本事業のサポートを担うかたちで参加し、地域で「顔の見える関係」を築くことができ、「何かあったときはしっきーずでつながった人を頼ろう」と思えるようになり、孤独・孤立解消につながった。 （定量的成果） ・実施回数：79 回、参加人数：1,984 人、担い手：100 人以上、新規参加者：315 人 ・知り合った人の数：750 人、連携先の数：50 以上、課題解決数：50 以上

（３）取組の様子

団体概要

団体名	NPO 法人　クラブしっきーず
代表者	増田　三枝子
設立年月日	2000 年 8 月 21 日　（ＮＰＯ法人格取得：2002 年 9 月 2 日）
スタッフ数	10 人+ボランティア 150 人
団体住所	埼玉県志木市柏町 3-3-31-106
ウェブサイト	https://shikkys.jimdoweb.com/
メッセージ	私が 21 歳の時、大好きだった兄を自死で失い、鬱病やパニック障害を発症し苦しみました。今笑顔でいられるのは、しっきーずでこども達から元気を貰い、ゆっくりと回復・成長していく姿を温かく見守ってくれた方が地域にいたからだと思います。この小さく丁寧な活動の中で起きる“循環”が、全国に広がりますように。

団 体 名：特定非営利活動法人　KOMPOSITION
取組地域：千葉県　松戸市
取 組 名：特別なニーズを抱えるこども向けの居場所と職業トレーニング

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり	★	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	☆	こども・若者		中高年者		高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

★	不登校の児童生徒	☆	ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（１）取組の内容

目的	不登校やひきこもりの体験等を持ち、特別なニーズを抱えるこどもたちの中には、就労に困難を抱える者が少なくない。そこで、本事業では、そのようなこどもたちの個別特性やニーズに基づき、地域と連携したオーダーメイド型の職業トレーニングプログラムを提供することで、地域に居場所と就業につながる機会を作ることを狙いとした。
対象とした人	ひきこもりや不登校のこどもたち（主に中高生）
内容	珈琲焙煎プログラム：高校生による珈琲ブランドの開発と商品生産、ウェブストアでの販売 ピアサポートによる学習プログラム：不登校やひきこもり等を体験した高校生が中学生に対して、悩み相談や勉強の不安等の話し相手となり、対人援助の学習支援を実施 空間リペアプログラム：周辺地域の商店やビルテナントにおける内装のリペア・修繕手法の学習

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	小学生や中学生向けに放課後や夏休みの居場所を提供している「さくら広場」との連携がきっかけで本取組がスタートした。本取組の重要な特徴として、こどもたちだけでなく、地域内外の子育て、福祉の専門家、デザイナー、職人、商店主、その他専門家による協働・参加型でのプログラムづくりを行ったことが挙げられる。 また、プログラム概要を紹介する冊子を作成し、地域の支援者、専門家に対して配布・説明を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	地域で自立・自律できる事業モデルの構築が最も大きな課題であった。本取組では、地域の資源をつなぎながら、持続可能なプログラム設計を前提に計画を立てた。その際のポイントは以下の通り。 ・ こどもたち（参加者）が学んだスキルを活かした商品・サービスを販売することで、収益を確保する ・ まちづくり分野との連携、具体的には地元の地域ブランドとして PR するような、イベント展開・販促等の企画づくりを行う ・ プログラムに対して協力してくれた企業から協賛を獲得する ・ 上記に関連して地元自治体である松戸市の資源を活用することを模索する
定性的な成果 定量的な成果	プログラムの設計や運営においては、課題や困難の解決ではなく、参加者の持っている強み、ストレングスの支援に重きをおいた。「新しい体験への挑戦」「参加者同士の協働、交流」を図ることで、参加者には「自ら目標設定し、達成する体験」「自信の獲得」「新たな興味関心分野の発見」等の変化が見られた。 【実施状況】 珈琲焙煎プログラム：6 回、参加者延べ 28 人、連携先 2 団体 ピアサポートによる学習プログラム：6 回、参加者延べ 42 人 空間リペアプログラム：6 回、参加者延べ 24 人、連携先 2 団体

（３）取組の様子

団体概要

団体名	特定非営利活動法人　KOMPOSITION
代表者	寺井　元一
設立年月日	2002 年 11 月 6 日
スタッフ数	4 人
団体住所	千葉県松戸市本町 20-10 ル・シーナビル 7F
ウェブサイト	https://komposition.org/
メッセージ	孤独・孤立の状態にある利用者を取り巻く環境は家族、地域ごとに異なると思いますが、皆さんのご活動の工夫や課題を教えていただき、日々の実践に活かしていきたいと思っています。

団 体 名：社会福祉法人　九十九里ホーム
取組地域：千葉県　匝瑳市及び近隣町村
取 組 名：孤独・孤立の防止につながる福祉のまちづくりプロジェクト

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり	☆	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	☆	こども・若者		中高年者	★	高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯	☆	単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援

（１）取組の内容

目的	地域おいて孤独を感じている高齢者が社会の一員であることを認識できるプログラムの開発と、若者が自己肯定感を獲得できるような社会参加の機会の創出を目的とする。具体的には、一人暮らし高齢者向けの居場所づくりと若者の就労支援を中心に取り組み、その活動を通じて行政及び各機関の連携に関するネットワークを構築する。
対象とした人	当地域の一人暮らし高齢者 進路に悩む若者
内容	・ 飯倉駅前の地域交流センターナザレの里にて地域住民の集いの場として、レザークラフト教室、ペーパークラフト・おりがみの会及び絵手紙教室等を開催。 ・ 男性高齢者を含む参加者に当事業の啓発を行うため、落語家による落語会を開催。 ・ 進路に悩む高校生等若者の不安や孤独感の解消を目指し、学校との連携により職場見学・体験・セミナーを実施。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	・ 匝瑳市・社会福祉協議会・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・老人保健施設・栄養ケアステーション・民生委員・高校・短大・大学・専門学校・ガールスカウト・ハローワーク等と連携し、地域の高齢者や若者がひとりで悩まなくて済む地域づくりを目指した。
対象とした人とつながるために行った工夫	・ 連携先である行政・社会福祉協議会・他法人事業所及び各機関と、本事業の目的や取組内容を共有し、参加者が本事業につながるよう、連携先へのチラシやポスターの配布や、ホームページ等を通じた周知を実施した。 ・ 支援者同士の連携体制を構築し、困りごとを抱えた人が「人とのつながり」を通じて一人で悩まなくて済む地域づくりを目指した研修会を実施した。
定性的な成果 定量的な成果	（定性的成果） ・ 様々な活動を行うことで地域住民との交流の場を設置し交流の機会が増えた。 ・ 各プログラムに協力してもらえるボランティアの人材が増えた。 ・ 様々な機関との連携により顔の見える関係を築くことができた。 ・ 研修会の実施により支援者の意識の向上と支援技術の習得につながった。 ・ 地域のイベントでチラシを配布することにより当事業の周知と啓発につながった。 （定量的成果） ・ 集いの場への参加者数：192 人（延べ人数） ・ 落語会への参加者数：90 人 ・ 進路に悩む高校生等若者の就労支援への参加者数：高校生 34 人、大学生 11 人

（３）取組の様子

団体概要

団体名	社会福祉法人　九十九里ホーム
代表者	理事長　　井上　峰夫
設立年月日	1995 年 10 月 1 日
スタッフ数	総数 30 人 専任 5 人
団体住所	千葉県匝瑳市飯倉 21 番地（法人本部）
ウェブサイト	https://www.99-home.com
メッセージ	当法人の従来からの福祉事業に加えて、今後は重層的支援体制整備事業交付金等の安定的な財源を確保し、人材の確保及び本事業による取組の継続により、今後も孤独・孤立防止対策に関する社会福祉法人としての役割を発揮していきたい。

団 体 名：一般社団法人　青母連（青少年を守る父母の連絡協議会）
取組地域：東京都　新宿区
取 組 名：青少年を持つ家族と地域ボランティアの連携による見守り強化

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築	★	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
☆	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	★	こども・若者		中高年者		高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

☆	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

☆	支援者支援

（１）取組の内容

目的	ボランティアと相談者と支援団体の三者が、現場である歌舞伎町の町に出て、若者への声かけやパトロールをすることにより社会の現状を実感する。また、メディアを介してではわからないような事実を、社会貢献意欲のあるボランティアに見てもらうことで、より一層、若者が孤立しないような地域社会を作っていく。
対象とした人	新宿区歌舞伎町に来る若者、相談者である親御さん、社会貢献意欲のある人を対象とした。
内容	相談者、ボランティア、団体職員で、夜間に歌舞伎町にいる若者に、化粧品やお菓子等の手に取ってもらいやすい物品を配り、声掛けをしながら、当団体が「繁華街にまつわる相談対応や、弁護士との連携をしている」等の情報を伝えた。「何かあればいつでも相談してほしい」ということも伝え、認知度の向上を図った。 相談に来られる親御さんは、自分の娘や息子が繁華街で犯罪被害に遭い、仕事や生活に支障が出ているケースもある。そのような状況の中で、社会貢献意欲のある方と一緒にパトロール活動を行うことにより、自分たちの置かれた状況に関心を持ってくれる方がいるという実感につながる。 当団体にボランティア登録してくれている方たちへ本プロジェクトの内容を共有し、現場を見たいという方に夜間の声掛け活動に参加してもらった。また、相談者、ボランティア、団体職員の三者の集まる会合（三者会合）について、普段メディアではわからないような一つひとつの事例を相談者である親御さんから直接話を聞ける機会だと伝えることで、会合への参加を促した。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	当団体にボランティア登録をしてくれている方に本事業の取組を伝え、積極的に活動に参加いただいた。また、新宿区社会福祉協議会に本事業の内容を共有し、ボランティアを希望する方へ情報を伝達していただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	三者会合の際、ボランティアに対しては、苦しんでいる人が増え続けているという実態を伝えることで、より活動に参加してもらえるように促した。また、相談者である親御さんに対しては、このように関心を持っているボランティアが世間にはいるということを伝え、少しでも自分の娘や息子が被害に遭ったことによる心の傷が癒えることを目指した。
定性的な成果 定量的な成果	歌舞伎町にいる若者の変化：歌舞伎町内の大久保公園周辺にいる女性やトー横キッズといわれている若者たちの中には、“いつもいる子”がいる。その子達と何度も顔を合わせていくうちに、若者の方から、ボランティアや活動に参加してくれているご家族に声をかけてくれることがあった。 相談者である親御さん：センシティブな相談が多い中、最初は夜のパトロール活動に参加するのも不安そうな様子だった。ボランティアと一緒に活動をしていく中で、相談者である親御さんが「参加しているボランティアの方も“繁華街で被害を受ける若者を救いたい”という思いを持ってくれている」ことを実感し、不安が軽減されていった。 社会貢献意欲のある人：元々、繁華街でのトラブル等に巻き込まれる若者を支援することに関心がある方が、実際の現場を見ることに加えて、相談者である親御さんから実際にあった被害の内容を聞く事によって、社会課題に対する知識や情報に接して、より一層真剣に社会課題に向き合うようになった。本事業の取組で相談者が夜のパトロールに正式に参加するようになって以降、ボランティア登録して活動に参加する方の人数も新規を含めて増えている。また、三者会合への参加人数も、ボランティア、相談者共に増えており、相談者である家族が活動に参加することが、パトロールに対する参加者全体の意欲向上につながっている可能性がある。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	一般社団法人　青母連（青少年を守る父母の連絡協議会）
代表者	玄　秀盛
設立年月日	2023 年 7 月 20 日
スタッフ数	4 人
団体住所	東京都新宿区歌舞伎町 2 丁目 42-3　林ビル 6 階
ウェブサイト	https://seiboren.jp/
メッセージ	核家族化・SNS の普及等で孤独をより感じる人が多くなった今だからこそ、様々な取組で 1 人でも多くの人を救うことができるように、共に頑張りましょう！

団 体 名：認定特定非営利活動法人　キッズドア

取組地域：東京都　墨田区

取 組 名：こどもの居場所を活用した高齢者の孤独・孤立防止のための多世代・多文化交流コミュニティーの形成

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	☆	こども・若者		中高年者	★	高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（１）取組の内容

目的	こどもや高齢者を対象とした多くの支援活動が展開されているが、各団体個別の活動となっていることが多い。このため、キッズドアが運営する中高生を対象としたこどもの居場所である「LL すみだ」を拠点に地域の支援団体に働きかけて地域のコミュニティーを形成し、こどもの育成を図るとともに、高齢者の社会活動への参画を促して孤独・孤立防止の推進に取り組むことを目的とする。
対象とした人	主にひとり親、共働き等の家庭環境のなかで体験機会の少ない、いわゆる体験格差のあるこどもと、地域の活動になかなか参加できない高齢者を対象にした。
内容	主な取組としては、「LL すみだ」を利用しているこどもたちの体験活動として、地域の高齢者と交流するイベントを企画し実施した。 こどもと高齢者の交流イベントとしては、車椅子利用の高齢者から話を聞く会、ボッチャ大会、折り紙、ちぎり絵、工芸、フォークダンス、JAZZ を聞く会、コーヒーを楽しむ会等を実施した。イベント開催時には町内会、高齢者支援団体、地域のこども支援団体等にチラシ等を配布して、地域と連携して開催した。 上記開催にあたり地域の支援団体等との打ち合わせを行い、地域で連携して本事業を実施した。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	墨田区立花・文花地区では、まちおこし団体「ワンスミダプロジェクト」が高齢者・外国人・子育て世帯の孤立防止や見守り活動を展開している。「ワンスミダプロジェクト」には墨田区社会福祉協議会、民生委員、ぶんか高齢者支援総合センター、NPO すみだ多文化共生交流会、立花児童館、千葉大学、UR 都市機構等が参加している。
対象とした人とつながるために行った工夫	高齢者の参加を増やすために、各支援団体を通じて参加を呼びかける活動を行った。 地域の高齢者に「LL すみだ」の紹介や施設見学等の機会の設定をしていただいた。このことで多くの高齢者が「LL すみだ」の活動を認知し、関心を持ってくれるようになった。またワンスミダプロジェクトのメンバーには「LL すみだ」の職員と連携して、地域の支援団体やキーパーソンに交流コミュニティーへの参画を促す取組をしていただいた。
定性的な成果 定量的な成果	・ イベント実施回数 14 回 ・ イベント参加者 こども 57 人、高齢者（シニア）65 人 ・ イベントの担い手 ボランティア 12 人、職員・スタッフ・団体関係者 52 人 ・ 交流コミュニティー形成に向けた働きかけ等支援団体等との打ち合わせ回数 29 回 「LL すみだ」を利用しているこどもたちに対して、前述の本事業に関わる高齢者との交流イベントに加え、およそ 40 回におよぶ体験活動を実施した。こうした体験活動について、こどもたちからは「知らなかったことを知ることができた」「知らない高齢者と話ができて楽しかった」「今度は自分たちが高齢者に対して何かしたい」といった声が多く上がった。また、保護者からも「イベントから学んだことを得意げに話してくれた」、「興味や関心ごとの範囲が広がった」、「成長を感じる」、等の声が聞かれた。交流活動を通じて、こどもや保護者にとって好ましい変化が生じつつあると判断している。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	認定特定非営利活動法人　キッズドア
代表者	理事長 渡邉　由美子
設立年月日	2007 年 1 月任意団体設立、2009 年 10 月法人化
スタッフ数	職員 99 人（2024 年 12 月時点）
団体住所	東京都中央区新川１－16－10 アーバンプライム２F
ウェブサイト	https://kidsdoor.net/
メッセージ	こども支援を中心に据えながら地域を巻き込んだ取組は初めての挑戦だった。地域に根ざしたこども支援拠点としてさらに役割を果たせるよう、関係構築を進めてきたワンスミダプロジェクト、支援団体やボランティア等との連携を強化して活動を活性化していく。

団 体 名：一般社団法人　Arts Alive
取組地域：東京都　豊島区、北区
取 組 名：アート創作やアートを通した対話（ARTRIP）による孤独･孤立防止事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り･支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供･相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援･連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	☆	こども･若者		中高年者		高齢者

★	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

☆	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（１）取組の内容

目的	発達障害のこども達やその保護者が、作家と一緒に大勢でコラージュ壁画を制作したり、美術館やお寺の本堂での対話型鑑賞グループワーク《アートリップ》に参加したり、保護者対象のアートリップで交流した後、お互いに悩みを相談する交流会を開いたりすることで、当事者等の孤独･孤立を防止することを目的とする。
対象とした人	豊島区や近隣区の特別支援学校や特別支援学級及びデイサービスに通う未就学児とその保護者
内容	親子向けアートリップ： 芸術を通した対話型鑑賞グループワークによる交流機会の創出を目的に、「豊島区立熊谷守一美術館における対話型鑑賞《アートリップの実施》」「ARTRIP@勝林寺」を開催した。 コラージュ壁画作成のワークショップ： 《みんなで描こう、大きなコラージュ》と題し、こども達やその保護者が水彩でコラージュ壁画を作成して、豊島区民センターエントランスホールで公開展示を行い、完成写真を絵ハガキにして参加者へ送付した。 保護者向けアートリップ＋交流会： こどもの障害や発達が気になる保護者に対して対話の機会を設けた。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	豊島区：広報、教育委員会の紹介、区役所及び区内施設でのチラシ配布等で連携・協力いただいた。 白鳥の会（豊島区特別支援学級保護者有志の会）：企画内容のほか、募集チラシの文章、広報対象等について講ずべき特別配慮に関するアドバイス、企画事業への参加者募集における協力等の支援をいただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	発達障害のこどもやその保護者と出会うために、特別支援学級の保護者有志の会と連携して、こども達及びその周辺へのアプローチを試みた。 豊島区教育委員会を通して、豊島区内の特別支援学級にイベント参加募集チラシを配布したほか、都内の特別支援学校にコンタクトして、直接全校生徒分のチラシを送付した。 発達障害の方が集う Facebook グループに対してイベントの告知を行った。
定性的な成果 定量的な成果	障害をもつこども達にとって、アートというツールを使って表現し、新しい場所での活動を行うことは刺激となりよい機会になったとの感想が多く得られた。また、保護者もこどもと共に行うグループ内での活動を通して会話が広がり新たな交流が生まれていた。 本事業（アートリップ）を通して、新しいつながり、課題を一人で抱え込まず話せる場を増やすことを目指しているが、今回美術館でのアートリップ、壁画のコラージュ創作、保護者向けアートリップを通して人とのつながり、交流の場を持つことを実施することができた。ありのままの姿でそのままが受け入れられる交流の「場」作りにアートが有効であることが証明されたといえよう。 親子向けアートリップ（2 回）で計 33 人、コラージュ壁画作成のワークショップで 65 人、保護者向けアートリップ（4 回）で延べ 24 人の参加があった。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	一般社団法人　Arts Alive
代表者	代表理事　林　容子
設立年月日	2009 年 11 月 1 日　設立
スタッフ数	15 人（非常勤を含む）
団体住所	豊島区駒込 2－5－1－903
ウェブサイト	http://www.artsalivejp.org
メッセージ	異業種との連携は相互理解に時間がかかることもありますが、大きな学びであり、異業種との連携における活動が、今後の孤独・孤立防止策には必要だと思っています。自身の団体の受益者のためにアートの体験を通して孤独・孤立化を防ぎたいと思われる団体の皆様と連携していきたいと思っています。

団 体 名：特定非営利活動法人　サンカクシャ
取組地域：東京都　豊島区、北区
取 組 名：街全体で行う若者の居場所づくり

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆	交流の場の提供	★	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
☆	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	★	こども・若者		中高年者		高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（１）取組の内容

目的	本事業は、支援を受ける若者だけを対象とするのではなく、地域の大人にも若者たちを受け入れられるように変化を促すことを目的としている。若者への居場所づくりは、安心できる場の提供だけでなく、多様な大人とのつながり作りが欠かせない。これまでの居場所は比較的閉じた形で運営をしていたものの、今回の取組では、街中に居場所を作ることで、若者たちと地域や企業の大人との接点を作りやすくする場を運営する。
対象とした人	親や身近な大人を頼れない 15～25 歳くらいまでの若者 サンカクシャ拠点の近くの地域に住んでいる大人
内容	事業では、大人と若者の接点を作りやすくするため、街中に若者の居場所を作り、活動を実施した。 滝野川フレイムスは毎週水曜日にサンカククエスト（就労体験）の作業場所、兼、居場所として利用した。サンカクシャが運営する通常の居場所も開放している時間帯にあえて 2 拠点目を設けることで、若者がどちらですごすかを選べるようにした。 Farm to Home では、若者が店員を務めるカフェ企画「ルーロー飯やさん」を開催した。 マチノオトでは、静かに勉強をしたいと希望する若者が利用するブカツドウ「シカク（資格）部」が立ち上がり、ブカツドウとして利用した。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	以下の店舗で、若者が居場所や就労体験の場所として利用できるよう協力を受けた。 滝野川フレイムス：北区滝野川にあるコーヒースタンドと古民家のレンタルスペース。 Farm to Home：駒込駅近くにある野菜販売とカフェスペース。 カフェ ポート グラスゴー：巣鴨駅近くにあるカフェバー。 マチノオト：豊島区にある古民家のレンタルスペース。
対象とした人とつながるために行った工夫	孤独を感じている若者にとっては、「どこに誰がいるのか＝その人やその場所と関係ができているのか（知っている場所なのか、知っている人がいるのか）」ということが、つながりができるきっかけとなると考える。 一時期、滝野川フレイムスを利用する若者がガクッと減り、日によっては開放してからしばらくの間誰も来ないということもあった。そのような時は、LINE のオープンチャットで「フレイムスも空いているよ（スタッフがいるよ）」と若者たちに連絡をすることで、利用を促した。 就労体験や「ルーロー飯やさん」等については、サンカクシャが拠点として運営する居場所に通っている若者の状況をスタッフが見守りながら、手伝ってほしい若者へ直接声かけをして参加を促した。
定性的な成果 定量的な成果	若者の変化：これまでの居場所では「少人数で落ち着いて過ごしたい」という若者のニーズに応えきれないことがあったが、滝野川フレイムスやマチノオトを利用することで、「ただただ静かにすごしたい」「集中して勉強したい」といったニーズにも応えることができるようになった。 地域に住んでいる大人の変化：これまでサンカクシャに関わりのなかった街の大人の方にも関心を持ってもらえるきっかけとなった。具体的には、滝野川フレイムスのコーヒースタンド営業が終了する 13 時以降も、お客さんである地域の大人がその場に残って若者と話す姿が見られた。 また、滝野川フレイムスでは、サンカクシャが居場所として利用している日に、お店の Instagram で「サンカクシャが利用している」という告知をしてもらっていて、それを見て近所の方が訪問してくださるといったこともあった。「ルーロー飯やさん」の会場として借りた Farm to Home や、カフェポートグラスゴーでも同様に、もともとお店を利用しているお客さんである地域の大人にとってサンカクシャを知るきっかけになった。「地域の中に居場所を作る」という目的について達成することができたと考えている。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	特定非営利活動法人　サンカクシャ
代表者	荒井　佑介
設立年月日	2019 年 5 月 24 日
スタッフ数	31 人
団体住所	東京都豊島区上池袋 4 丁目 35-12
ウェブサイト	https://www.sankakusha.or.jp/
メッセージ	地域の中で関係性ができると、場所を借りるお願いがしやすくなりますし、地域の人と若者が直接つながれば、スタッフがいなくても活動が成立し、結果として活動が広がることになります。お願いされることを嬉しく思う地域の人はきっといますので、そういった人にお願いすることで、できることが広がっていきます。一緒に頑張りましょう！

団 体 名：RMJ
取組地域：東京都　葛飾区
取 組 名：国籍を問わないママ･パパのためのつながり支援

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り･支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供･相談支援			
★	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
☆	情報発信の充実	☆	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援･連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代		こども･若者		中高年者		高齢者		障害者	☆	外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

★	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯		不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援

（１）取組の内容

目的	ママ･パパたちのオンライン･オフラインでの交流機会を創出することにより、孤独感の減少と精神的な安定を促進する。各種イベントを通じて地域内外の人々の交流を促進し、地域の絆を強化する。保育士への LINE 相談体制強化により、ママたちの安心感を高める。地域の行政や団体との協力、連携により、様々なリソースを活用した多角的支援を行う。
対象とした人	実社会で仲間を作りづらいママパパたち（国籍を問わない）
内容	・ 葛飾区生涯学習課共催 「区役所ツアー」：日本語が話せないと「怖い」と感じてしまう区役所や区役所の職員と実際に関わる機会を持つことで、恐怖心をとるためのツアーを実施 ・ 葛飾区生涯学習課共催 「科学実験教室」：こどものための実験教室を実施 ・ 体験会：ヒジャブ体験会、水習字体験会等を実施 ・ 葛飾区文化国際課主催 「国際交流まつり」：合唱の練習を複数回重ね、イベントのステージに出演 ・ Discord を使ったオンラインコミュニティ： ２ヶ国語で情報交換等ができるコミュニケーションの場を提供 ・ 葛飾区社会福祉協議会主催 「地域貢献活動フェア」：移民相談ブースを設け PR を実施

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	・ 区文化国際課及び地域団体：連携により国際交流まつりや特別養護老人ホームに出演（コーラス） ・ 区生涯学習課：「区役所ツアー」、「科学実験教室」等の体験型イベントを実施 ・ 社会福祉協議会：依頼を受け高砂駅構内での PR イベント兼「移民相談コーナー」に出展
対象とした人とつながるために行った工夫	当団体が対象としているのは多国籍家庭の親であるが、親はいつもこどもを連れていく場所を探しているため、科学実験教室はより多くの家庭にリーチできた事例であった。 ママ同士の集まりに行くことを子や夫に反対されやすいムスリム女性は、「ヒジャブ体験会」には参加しやすいようであった。背景として、自分の文化をみんなに知ってもらえる機会として家庭にも説明できる、自分としても罪悪感なく参加できる等が考えられる。 代表が、コミュニティメンバー全員の出身国、仕事の有無、こどもの人数や年齢、友人を作る際の特性等、大体の特徴を把握し、適宜フレンドマッチングを行っている。これにより、団体のイベント外でも頻繁に会って仲良くなれるような友人づくりを促している。
定性的な成果 定量的な成果	・ オンラインコミュニティ参加者数：開始当初 40 人から 77 人へ増加 ・ オンライン又は対面での支援件数：152 件 ・ 定性的成果：葛飾区生涯学習課との共催イベントでは、新しい多国籍家庭とつながることができた。特に「科学実験教室」は移民パパの参加が多かったため、仕事以外で人とつながる機会が少ないパパ同士が LINE 交換をする等、これまで当団体では見られなかった交流が見られた。LINE 相談等の支援については、これまでは対価が支払えずボランティアとしていたため参加するママたちにとって負担になりやすかったが、「仕事」としてこれまで以上にやりがいを持って取り組んでもらえるようになった。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	RMJ
代表者	室井　萌
設立年月日	2022 年 3 月
スタッフ数	（メンバー数）オンラインコミュニティ 77 人　※相互で助け合っているためスタッフ込み
団体住所	東京都葛飾区
ウェブサイト	https://rmjtokyo.org/
メッセージ	孤独・孤立をなくすことは、人間の本質に根ざした大切な活動です。ひとりでは時間がかかるかもしれませんが、多くの団体・個人が異なる分野でさまざまな形で活動すれば、幸せになる人は必ず増えていきます。 支援する私たち自身の幸せも大切にしながら、協力し、一緒に幸せな未来をつくっていきましょう。

団 体 名：一般社団法人　フードバンク八王子
取組地域：東京都　八王子市
取 組 名：第二期・食で結ぶ「孤独・孤立対策プラットフォーム」の構築

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
☆	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援	★	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	☆	こども・若者		中高年者	☆	高齢者

☆	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

☆	子育て世帯	☆	ひとり親世帯		単身世帯

☆	不登校の児童生徒	☆	ひきこもりの状態にある人	★	生活困窮状態の人	☆	薬物依存等を有する人

	支援者支援

（1）取組の内容

目的	八王子独自の孤独・孤立対策プラットフォームとして会議体を構成している。プラットフォームに参加するメンバー間での問題意識の共有と展開、そして官民を問わず、様々な孤独・孤立の当事者への支援の連携を図る。
対象とした人	困窮者や障害のある方、母子家庭、不登校のこども、孤立した高齢者等を対象とした。ただし、必ずしも貧困であることを前提とはしていない。
内容	・ 食で結ぶ孤独・孤立対策プラットフォーム構築：対象者との接点としては食をきっかけとすることが多いが、それだけではなく広く日常生活の中での接触が関わりのきっかけとなるよう心掛けた。また、官民を問わず、自分の課題に必要な、あるいは課題に適した「窓口」に辿り着くことができない人々を対象とした。このような「窓口以前」に滞留している人々を適切な「窓口」へと中継することを活動の基本とした。 ・ 週 1 回のフードカフェの開催：毎週火曜日に「一緒に作って一緒に食べよう」をモットーにフードカフェを開催した。目的は、行く場所がない人たちへの居場所の提供である。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	プラットフォーム構築においては、民間団体、行政、高校・大学と官民学連携がなされており、月 1 回の月例会を通して情報、課題の共有と関係構築を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	対象とする人々とつながることは、単独では難しいという問題意識があった。 官民を問わず多様な機関と様々な市民（団体）が問題意識を共有し、その上で日常生活の中で発見された孤立した人をフードバンク八王子が中継して関係諸機関へとつなげる、そのような構造を構想した。 この構造が「地域での早期発見・早期対処」を目指す一つの有力な方法になり得ると考えた。
定性的な成果 定量的な成果	(定量的成果) ・ 官民を問わず、市役所や保健所、市民から紹介されてフードバンク八王子につながり、そこから更に関係諸機関（行政や病院）につなげた数は、延べ平均にして約 70 人/月。 ・ 本事業で運営している毎週火曜日開催のフードカフェに滞在する人数は、延べ平均で約 80 人/月。約半数が常連となっている。 (定性的成果) ・ 当団体が支援した人たちは、フードバンク八王子を中継して関係機関とつながり、そのつながりを維持しており、支援前と比較すると多少なりとも社会的な孤立という状況が改善されている。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	一般社団法人　フードバンク八王子
代表者	代表理事　國本　康浩
設立年月日	2016 年 6 月 23 日
スタッフ数	９人
団体住所	東京都八王子市中町 2−9
ウェブサイト	https://foodbank8.tokyo/
メッセージ	東京都八王子市という特定の地域特性を備えた地盤で活動を行っている余りにも零細な団体であって、資金力や人材力を筆頭に、そのパワーには明白な限界がある。しかし私たちの活動にとって重要なことは、団体としてのパワーの増強ではない。地域で、官民を問わず、どれくらいのネットワークを構築し維持できるか、この一点にある。

団 体 名：こどもと大人の地域活動「たのつく」
取組地域：東京都　小平市
取 組 名：大人もこどもも集える、「ファミリーデー」×「たのつくフェス」

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	★	こども・若者		中高年者		高齢者		障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

☆	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯	☆	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援

（1）取組の内容

目的	昨年度に開催した「たのつくフェス」を今年度も開催し、こどもたちの発信によって、より多くの大人もこどもも巻き込み、関わる人を増やす。「ファミリーデー」を開催し、ボードゲーム会やその他のアクティビティを通じて、「子縁」を活かしたつながりを強化し、共通の趣味を通じた交流を促進することで孤独・孤立予防における居場所との相乗効果を生む。
対象とした人	近隣地域の小学生や幼児とその保護者 不登校、発達特性等により地域や学校の中で孤立しがちなこどもとその家庭
内容	・ ファミリーデーの開催：親子でも、大人同士でも楽しむことのできるボードゲームをツールとして活用したボードゲーム会を休日に定期開催した。加えて、参加者のニーズに応じて、シャボン玉づくりやアート講座、豚汁づくり等、ボードゲーム以外にも親子で協力して楽しめるアクティビティを実施した。また、こどもを見守るスタッフも配置し、保護者が安心して大人同士で交流できる環境をつくった。 ・ たのつくフェスの開催：ファミリーデーの試行期間中並行して、こどもたちが平日(月 2 回・隔週水曜日)の居場所活動の中で準備を重ねることで、こどもが主体となって運営する「たのつくフェス(年末のおまつりイベントのようなものを想定)」を休日に開催した。ファミリーデーの集いと連動し、こどもを起点に保護者の参加も促したことで、こどもや保護者との新たな接点を生み、ゆるやかなつながりを拡大することを目指した。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	小平市こども家庭部子育て支援課（情報の周知、チラシの設置）、小平市上水本町地域センター（活動拠点）、小平市社会福祉協議会（見学、活動紹介）、小平市上水本町上鈴木自治会、小平第十小学校（チラシの配布許可・協力、こどもへのアドバイス）、等 7 か所程度
対象とした人とつながるために行った工夫	当初は事前申込制にしていたが、申込みへ誘導せず緩やかに呼びかけるように変えてから参加者が増えるようになった。また、地域センターの館内だけでなく、前にある公園も使って開催するようにしたところ、通りがかった初めてのご家族が参加してくださるといった、新しいアプローチもできるようになり、今年度の新規参加家庭数は約 20 家庭となった。「たのつくフェス」のイベントでは、こどもたちが企画メンバーとなることで、主体的に友達に参加を呼びかけるようになった。当日はこども・大人合わせて 136 人もの参加者を呼ぶことができ、そのほとんどがこどもであった。
定性的な成果 定量的な成果	本事業を通じて初めて当団体の活動や居場所づくりについて知ってくださった方が多くいらっしゃり、そこから普段の活動にも、こども、保護者ともに関心を持ってくださったことで、地域住民の居場所の選択肢の一つとなることができた。 これまでの活動では一参加者として関わっていたこどもや大人が、本事業ではイベントの企画・運営側として積極的に参加する様子が見られた。一例として、開催後の保護者インタビューで次のようなコメントが得られた。「スタッフの方々や参加している上級生の子たちがとても温かくて明るく、親切なのが印象的で、まるで大家族の中にいるような居心地です。のびのびと過ごせることももちろん魅力ですが、たのつくを通して親子共に地域の方々と関わる機会ができ、安心感が持てたことが一番大きいです。運営して下さる皆様への感謝と共に、この温かい地域で子育てができて本当に良かったなぁと感じています。いつもありがとうございます。」このように、本事業を通して、新たなつながりや地域への安心感を生み出すことができた。 さらに、活動の一連のプロセスの中で、こどもを通じて多様なステークホルダーとのゆるやかなつながりが広がり続けている。こども、大人共に実施を続ける中で参加者が増えていき、たのつくフェスでは計 100 人以上の参加がみられた。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	こどもと大人の地域活動「たのつく」
代表者	渡部　岳
設立年月日	2022 年 4 月 1 日
スタッフ数	６人
団体住所	東京都小平市上水本町 3-12-16
ウェブサイト	https://tanotsuku.wixstudio.com/kodomo
メッセージ	こどもが「楽しい」と思うと、大人も「楽しい」。「遊び」「集い」「つながる」ーこうして生まれる「楽しい」が、こどもも大人も安心できる居場所になる。誰もがふと立ち寄れる場があること、それは誰にとっても大切なことだと実感しています。

団 体 名：一般社団法人　あけぼのインクルージョン
取組地域：神奈川県　横浜市
取 組 名：依存症回復者等を対象とした地域内居場所事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供	★	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代		こども・若者		中高年者		高齢者		障害者		外国人		被災者	★	犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯		不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人	☆	薬物依存等を有する人		支援者支援

（１）取組の内容

目的	日常の保護等の支援に地域参加の取組をプラスし、当事者の日常の幅を広げる居場所を作るとともに、居場所では当事者それぞれができる地域参加（ゴミ拾い、簡単な軽作業、料理補助）を実施する。また、居場所が支援団体同士のネットワークや情報交換の場になることで、支援者のバーンアウトを防ぐ。
対象とした人	横浜市中区に住む依存症患者、元受刑者、高齢者、障害者
内容	当初の想定と大きく変わり、利用者自身が運営主体となって、支援者はサポート役になった。依存症患者や元受刑者の６人が実行委員会を結成し、自らプログラムと役割を考え、実施する形になった。 例えば、刃物に忌避感があったり、調理ができない方は掃除や買い出しを行い、料理ができる方は料理を担当した。基本的にいつでも食事を提供できるように準備をしており、簡易な盛り付けはそのとき行える方が手伝っている。 土曜日には障害者の方の長距離移動介護への同行や、山中湖や横須賀に海や紅葉を見に行く等した。 この他、元受刑者ならではのニーズとして、支援者と有志の利用者で墓参りにいった。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	神奈川県内農家、神奈川県内民間ホテル、横浜市中区商店街、町会：掃除等ボランティア先として連携。 他にも、かながわ外国人すまいサポートセンター、横浜市、神奈川県、横浜保護観察所、居場所に関する専門家、行政との事業に関する専門家とそれぞれ連携した。
対象とした人とつながるために行った工夫	世界のコミニティシェッドに共通する点として主に 3 つ挙げられる。「誰でも参加可能（依存症患者や元受刑者も含む）：中立的で偏見のない環境を提供し、誰もが平等に扱われる。」「なんらかの作業がある：スキルの共有や専門知識を共有することを奨励し、相互尊重を育む。プログラムには柔軟性があり、参加者は自分のペースで参加できる。」「コミュニティとの関わり：作業や作業で作った産物を通して、コミュニティに還元したり、居場所自体が社会的障壁を取り除き、連携を促進する機会となり、スティグマを軽減する。」
定性的な成果 定量的な成果	当初は、利用者自らがプログラムを策定し立ち上げるといった運営はできないと考えていたが、実際には依存症回復者、精神障害者、出所者等が自発的にプログラムに参加し、運営するようになった。これは現状で実施されている保護や措置の枠組みでは行えなかった当事者へのアプローチであり、同時に当事者の地域参加とそれを受け入れる地域づくりにもつながった。居場所は、支援団体同士のネットワーク、保護司の面会場所、ケアワーカー同士の情報交換の場になっていき、支援者のバーンアウトを防いでいる。 また、依存症等社会的弱者の支援のために、横断的かつ即時的なネットワークを構築した。5 つの異なる当事者団体が参加し、月 20 人以上の当事者による 4 か月以上の継続的な参加となった。 加えて、本事業で得られたノウハウとネットワーク、居場所の運営等を市の計画に反映するため、議員や担当課と情報交換、提案も実施した。これは、計画の促進になるだけではなく、自治体にとっても改めて調査に予算をかけるよりも効率的に現状把握できるメリットがあると考える。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	一般社団法人　あけぼのインクルージョン
代表者	木村　宋民
設立年月日	2024 年 12 月 10 日
スタッフ数	4 人
団体住所	神奈川県横浜市（住所非公開）
ウェブサイト	制作中
メッセージ	居場所づくりをしても依存症患者や元受刑者であることは変わらないが、再犯や再び中毒に陥る可能性は大きく減る。先人の知恵、自分たちの経験、当事者、そして多くの人たちの協力で、人が集える居場所を地域の中に作り上げることができた。ここに感謝を示し、この取組が全国で広がっていくことを期待する。

団 体 名：特定非営利活動法人　教育支援協会南関東
取組地域：神奈川県　横浜市
取 組 名：不登校が居場所につながり社会的自立を目指せる環境づくり

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
★	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代		こども・若者		中高年者		高齢者		障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯	★	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援

（１）取組の内容

目的	学校関係者や関係機関、不登校の若者の保護者や家庭が、フリースクールや民間教育施設の情報を得やすくなり、相談ができるようになるための取組を行う。こうした取組を通して、不登校のこどもやその家族が社会的な不利益を受けることなく様々な人に支えられ、体験や教育の機会が保障され、社会的自立につながる環境をつくる。
対象とした人	不登校の小学生や中学生、高校生年齢の若者　不登校の若者の保護者や家庭 学校の先生や関係団体　フリースクールや民間教育施設のスタッフ
内容	・ 当法人が事務局を務める横浜子ども支援協議会の参画団体や横浜市内を中心に活動している居場所づくり団体等を対象にした研修会を実施した。 ・ 横浜子ども支援協議会のリーフレットを 3000 部作成し、学校関係、支援機関、関係団体へ配布した。 ・ フリースクールの相談窓口を開設した。不登校相談会の情報に合わせて、相談窓口についてもホームページ上で周知した。 ・ 11 月に横浜子ども支援協議会の参画団体による相談、支援内容の周知を目的に、「不登校相談会」を実施した。（横浜子ども支援協議会主催、横浜市教育委員会共催）

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	横浜市教育委員会、地域イベント等で関係性があった南区役所にも協力を得た。 当法人の他事業でのつながりを活かして、各種居場所、こども食堂、学習支援団体や親の会からも広報の協力を得ることができた。
対象とした人とつながるために行った工夫	各小中学校で不登校支援にあたる児童支援専任や生徒支援専任が集まる専任会で不登校理解の周知や相談会の告知を行い、不登校相談会には学校の先生や関係者も参加できる場を用意した。フリースクールへの理解や認知度を高める取組を行った。 不登校の相談だけでなく、フリースクールの紹介ができる相談窓口を設けたことで、保護者だけでなく、教員からの相談も受けることができた。
定性的な成果 定量的な成果	・ ホームページにて、フリースクール相談窓口の開設、相談員の配置と相談会の告知を行った。不登校相談会には、37 家庭の参加があった。 ・ 相談窓口に相談員を配置することで 47 家庭から相談を受けることができ、3 家庭は電話相談を継続している。 ・ 横浜市内のフリースクールや民間教育施設のリーフレットを作成し、3000 部を関係機関等に配布することができた。 ・ 不登校相談会では約 9 割（34 家庭）の方が、「参加して良かった」と感じ、「不登校体験談を聞くことで安心や希望を持てた」という意見（32 家庭）があった。 ・ 民間団体と協働することを通して、一体感や連携が深まった。 ・ 研修会には 8 団体が参加し、参加者アンケートでは「活動に活かせる内容だった」、「課題や目標を見つけられた」という意見が約 83%であった。 ・ 連携したいという新規団体が 3 団体あり、より細やかな連携ができるようになった。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	特定非営利活動法人　教育支援協会南関東
代表者	岩間　文孝
設立年月日	2015 年
スタッフ数	138 人
団体住所	神奈川県横浜市南区高根町 3－17－12
ウェブサイト	https://super-ykst.jp/
メッセージ	孤独・孤立には様々な形があり、今は大丈夫でもいつ孤独・孤立に直面してしまうのか予想が困難であると感じています。対象も活動も違う団体がつながり、情報交換や協働の場が生まれていく過程を通して、孤独・孤立に直面した人がボランティアやスタッフ、何らかの団体につながることができる環境になっていくのだと感じています。

団 体 名：NPO 法人　街カフェ大倉山ミエル
取組地域：神奈川県　横浜市
取 組 名：誰もが気軽に集う居場所を孤立家庭にとっての身近な相談室に

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
☆	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援	☆	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	☆	こども・若者		中高年者		高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

★	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

☆	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

☆	支援者支援

（1）取組の内容

目的	コミニティカフェのつながりの中で自主的に始まっていた夏休みに親子であつまる朝ごはん会や学校に合わない子の親のピアカウンセリングについて、量と質を向上させて孤独・孤立対策につながる地域の場として認知されること、当団体だけでは対応できない社会課題に対して多様な主体との連携体制を構築することを目的とした。
対象とした人	・ 子育ての負担を感じている親、学校に行きづらさを感じている子を抱える親 ・ その親を支援している団体、関係する支援機関
内容	学校休み期間中の「朝ごはん会」を夏休みに週 2 回、学校に合わないこどもの親の交流会となる「みかん会」を毎月 1 回開催した。 行政施設や専門機関との連携体制を模索し、一般市民にとって知る機会が少なく支援先とつながれていない孤立家庭にとって、当団体が地域の相談窓口を担い、分業している施設や機関を横串でつなぐことができる連携体制の構築に取り組んだ。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	支援機関の取組参加を実現するために、孤独・孤立対策の重要性や活動内容、課題を港北区長に説明し、交流会等に関係部署の職員に参加いただいた。港北区で活動を行っている団体との連携を深めるため、2 つの団体に声をかけて情報交換会を立ち上げた。
対象とした人とつながるために行った工夫	みかん会の中心人物はいわゆる『お節介』な方々であり、少し不安に思うこどもや親を見かけると声をかけてみかん会に誘った。当団体の活動の中で対象者を見つけては声をかける一方で、行政や自治会、関係施設から紹介されてくる方もいた。 参加者のほとんどが女性であるため、男性の会を開催するアイディアがでた。LINE グループを通じて募集し 5 人が参加した。
定性的な成果 定量的な成果	みかん会：開催回数 5 回、対象者の参加延べ 27 人 専門家相談室：募集回数 2 回、対象者の参加 1 人 朝ごはん会：開催回数 16 回、対象者の参加 275 人（餅つき大会を含む） 定性的成果：インタビュー（9 人）の結果、みかん会の効果は次の 3 点で、デメリットを挙げる対象者はいなかった。①自分のことを話すことで、気持ちが落ち着いた、安心した、悩みや困りごとが整理できた。②人の話を聞くことで、さまざまな子育ての困りごとを知り対処方法や視点が増えた、困難を乗り越えた先輩の話で未来に対するイメージができた、一人ではないと感じた。③見守ってくれる方、同じ悩みの方が身近にいて仲間になれた。 みかん会による副次的な効果も 2 点あった。①対象となる子の兄弟姉妹の学年・部活等の共通点が分かりつながりが強まった方々がいた。②開催頻度が上がったことでみかん会に対する関心が高まり、会で出た話題をグループ LINE に展開し情報の共有がなされたり、友人の中で不安な方を誘うという効果が見られた。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	ＮＰＯ法人　街カフェ大倉山ミエル
代表者	理事長　鈴木　智香子
設立年月日	2010 年 11 月
スタッフ数	10 人（ミエル企画部はスタッフを含めて 25 人）
団体住所	横浜市港北区大倉山５－32－26
ウェブサイト	http://cafemiel.jimdofree.com
メッセージ	我々のようにコミュニティカフェを運営し日常のつながりに強みを持ちながらも、課題ある家庭を見つけて困惑している団体が全国にはたくさん存在している。その方々ができる孤独・孤立対策がたくさんあって、それは、対象者にとっての救いになると思う。我々はその一例にすぎないが、困りごとや悩みごとがあればぜひご連絡いただきたい。

団 体 名：特定非営利活動法人　リンクトゥミャンマー
取組地域：神奈川県（※ケースにより東海・関東・甲信越まで対応）
取 組 名：在日ミャンマー人の孤独・孤立を防ぐ定住支援相談事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築	☆	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
★	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

	多世代	☆	こども・若者		中高年者		高齢者

	障害者	★	外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（１）取組の内容

目的	定住支援や文化交流事業を通じて、ミャンマー人の孤立問題に取り組んだ。従来の課題解決型の支援に加え、プッシュ型の支援を拡充していくことに重点を置いた。これにより、外国人の孤独・孤立を未然に防ぎ、当会名称の由来でもある「リンク」する役割を在日ミャンマー人コミュニティと日本人社会との間で果たすことを目指した。
対象とした人	留学や就職で来日して間もないミャンマー人、その配偶者とこども、日本在住歴が比較的長いミャンマー人世帯、ミャンマー人非集住地域に住んでいる人等を対象とした。
内容	対象者が日本での暮らしで困る場面を中心に支援した。具体例は以下の通りである。 ・ 日常生活支援：職場での対日本人従業員やミャンマー人従業員同士の関係性支援 ・ ビザや役所関係の手続き：小学校での通訳・翻訳支援や保育園入園支援等 ・ 病院の診察 ・ 携帯電話や住居の契約 ・ 空港でのお迎え ・ 食糧支援

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	小学校：児童が通う予定の小学校からの連絡をきっかけに、横須賀市教育委員会と業務契約を締結した。 行政：認定難民の第三国定住支援を行い、行政レベルでは行き届かない日々の支援を行っている。 企業：ミャンマー人の就職・転職先企業からの相談をきっかけに、職場での人間関係を支援している。
対象とした人とつながるために行った工夫	通訳担当がミャンマーから難民として来日した経緯があり、在日ミャンマー人コミュニティ内で多くの方から信頼を得ている。 双方向のやり取りを行い、24 時間 365 日の対応が可能である。相談者の生活における多様な困りごとに対処できる体制となっている。 一度相談対応を行った後も、定期的な連絡や食糧支援等を通じて、つながり続けるための工夫をしている。相談対応を行った方から他のミャンマー人へ当会を紹介されるケースもある。 他、イベント等での交流を通じて他団体との連携も強化している。
定性的な成果 定量的な成果	・ 相談・支援件数：231 件（8～12 月実績） ・ 文化交流事業イベント：「おとなりさんは外国人」多文化共生ワークショップ主催 ・ 文化交流事業イベント：国際交流フェスタへ参加 定性的成果：来日して間もない方々に向けては日本での生活基盤を整えるための支援を行い、地域社会や広く日本社会の一員として自立した生活を送れるような支援を行うことができた。在住歴の長い方々に向けては定期的な連絡や食糧支援等を通じて、いつでも相談できるような体制を整えた。これらの支援を通じて、日本社会とのつながりを作るきっかけを生み、在日ミャンマー人の日本での生活基盤を整備し、長期的な孤独・孤立の予防に寄与した。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	特定非営利活動法人　リンクトゥミャンマー
代表者	市原　彩子
設立年月日	2017 年 3 月 12 日（法人化：2017 年 6 月 14 日）
スタッフ数	10 人
団体住所	〒236-0051 神奈川県横浜市金沢区富岡東 6-30 E502
ウェブサイト	http://www.npoltm.org
メッセージ	引き続き相談者が満足できる定住支援を行うと同時に、文化交流事業を通じて多文化共生のすそ野を広げていきたいと思います。在日外国人や外国にルーツを持つ人々の孤独・孤立を防ぐことは、在日外国人コミュニティと日本社会をつなげ、社会が健全に発展していくためにも意義のあることです。今後も積極的に活動していきます。

団 体 名：NPO 法人　地域で子どもを育む会
取組地域：神奈川県　川崎市
取 組 名：多世代で取り組む小中学生の居場所づくり

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供	★	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★	多世代	☆	こども・若者		中高年者		高齢者

	障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ

	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯

	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人

	支援者支援

（１）取組の内容

目的	「地域のこどもは地域で育む」をコンセプトとし、小中学生対象の居場所づくりを行なっている。運営に高校生、大学生、フリーター、40 代～70 代の地域の人々がボランティアスタッフとして関わることにより、居場所を利用するこども・運営するスタッフともに学校、家庭以外の第 3 の居場所として、孤独や孤立を感じることなく過ごせる地域交流の場づくりをめざす。
対象とした人	・ ひとり親世帯を含む小学生・中学生 ・ 地域にいる地域貢献活動に興味関心のある大人、高校生・大学生・社会人 ・ 協力いただいている近隣大学生と先生
内容	①小学生の寺子屋について 　様々な理由により塾に通わないこどもたちのために、学習補習を行った。アート活動や音楽活動等を地域の方に協力いただきながらイベントも実施した。 ②中学生向けプログラムについて 　主に中学生（小学高学年）を対象に IT 教室を行った。大学生や高校生の IT に長けた方々にプログラムを作ってもらい全 6 回のコースを実施した。

（２）取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	高津区ソーシャルデザインセンター・久本町内会・高津区地域支援課・川崎市社会福祉協議会、こども食堂支援センターむすびえ、フードバンク神奈川・フードバンク川崎・コストコ倉庫店座間店、川崎市教育委員会地域教育推進課・川崎市民公益活動センター、洗足学園音楽大学・昭和女子大
対象とした人とつながるために行った工夫	多世代交流を念頭に、小中学生だけでなく、ボランティアスタッフの幸せ度をあげるために、それぞれの得意とする遊びや役割分担をすることで、自分たちが地域の役に立っていることを実感し、共に取り組む仲間として、なくてはならない存在であることを認識してもらうことを意識した。 地域公立小学校 4 校の学校長との面談を行い、チラシを置かせていただくとともに、地域のこどもや家庭の傾向についてもお話をお伺いした。ボランティアスタッフ数名で地域へ直接チラシのポスティングを行い、情報が届くように工夫した。
定性的な成果 定量的な成果	「多世代が集まる居場所」として毎週金曜に全 23 回行った。 参加人数：合計 806 人（小学生 410 人、中学生 131 人、高校生 55 人、大学生 41 人、社会人 14 人、地域の大人 155 人） 出席率：参加は自由としていたが、受益者である小中学生はほぼ毎回参加していて、小学生出席率 98%、中学生出席率 95%だった。これは体調不良等を除くとほぼ 100%に近い数字となり、地域の中での第 3 の居場所としての定着を意味していると考える。 こどもたちの変化としては、寺子屋に参加する前は学校に行き渋っていたこどもも、寺子屋で学年の違う友達ができ、学校に安心して通えるようになったこと等が挙げられる。 自由にいろいろな体験をすることができ、また安心して過ごせる場があることで、精神的に安定してきたと保護者の方からコメントいただいた。

（３）取組の様子

団体概要

団体名	NPO 法人　地域で子どもを育む会
代表者	代表　小畑　睦
設立年月日	2021 年 12 月（法人登録 2022 年 4 月）
スタッフ数	25 人
団体住所	神奈川県大和市つきみ野 3-25-4
ウェブサイト	https://acc-k.com
メッセージ	地域のこども達の孤独・孤立の問題は、外からは見えない家庭内の問題が多くあります。まずは間口を広げ、受け入れてからコミュニケーションを通してその子の抱えている問題を見つけることを意識していけば、ひとりでも多くのこどもたちの将来が安定した明るい未来となると信じて活動しています。